

2020年6月

No. 31

書道教室 薬院 一凛
sho-do ICHIRIN

継続は力なり



月刊
一凛



夢は美し〜がよい

希望は高きがよい

夢も希望も捨てなければ

必ず近づいてくる

目的は高きがよい、そのための

一里塚として目標を設定せよがよい

〜そのために時を

刻むがよい



月刊一凛 No.31〈2020年6月〉

《競書審査員》佐々木峯雲

《発行》書道教室 一凛 薬院

《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凛
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786
<http://www.shodo-ichirin.com/>

道に志し

徳に拠り

仁に依り

藝に遊ぶ

論語節 峯雲書

道に志し、徳に拠り、仁に依り、藝に遊ぶ

この言葉は、孔子が理想とした政治と「生活百科」というサイトには、教養のある人の15個の特徴が載っていました。

- 正しい言葉遣いが出来る
- 所作や振る舞いが綺麗
- マナーが身につけている
- 綺麗な食べ方が出来る
- 色んな考え方が出来る
- たくさんの知識を持っている
- 最近のニュースを知っている
- 人の話をしっかり聞ける
- 理解力が高い
- 落ち着いている
- 冷静に判断が出来る
- 感情的にならない
- 様々な経験を積んでいる
- 学習能力が高い
- 話し方が上手

道・徳・仁は、孔子が「論語」の中で繰り返し述べていることですが、ここに「芸」が加わっているのはとても興味深いことです。芸とは、古代中国の貴族階級が嗜んでいた「六芸」のことで、礼（礼節）、楽（音楽）、射（弓術）、御（馬車の操縦）、書（文学）、数（算術）の六つを指します。

道徳や人格だけでなく、人には教養や趣味も必要です。この言葉は「芸を学ぶ」ではなく「遊ぶ」と表現していますから、それらを楽しむという意味も含まれています。特に趣味はなく、仕事一筋という方が多いかもしれませんが、趣味や教養を身に付け、心豊かな日々を送りたいものです。

● 書術の技術の向上とともに、教養のある大人を目指して自分磨きに心掛けていきたいものです。

私たちは、趣味の一つとして書道を選んできて日々精進しています。それでは教養はどれ程身に付いているのでしょうか。

日本書道協会「名言名句辞典」より

※礼楽＝礼節と音楽。社会秩序を定める礼と、人心を感化する楽。中国で、古くから儒家によって尊重された。転じて、文化。

佐々木峯雲

墨を擦る

文＝岡田 雄希

世

界を席卷するコロナ禍のおかげで、私たちの未来は一変しようとしている。同時に起きた安倍政権スキャンダルとも言える「東京高検・黒川検事長」の辞任劇は、日本のマスコミで働いてきた人間の未来を一変させる出来事だった。

私も駆け出し記者時代に警察担当、いやゆるサツまわりをしていた。各都道府県警の本部、所轄の比較的大きな警察署には記者クラブがあった。県警本部、警察署にいても常に事件事故が起きているわけでもなく記者クラブで暇つぶしをしていた。私の場合は昼寝とか読書だった。クラブ内には年季の入った囲碁・将棋、花札、雀卓があった。

テレビの刑事ドラマの中で、大きな事件を抱えた捜査班のボス石原裕次郎が「捜査しているのがバレないように、どこか飲み連れていくか」といったセリフを言っていたのを覚えている。実際、先輩記者の中には朝から晩まで記者クラブで麻雀を打っていて、夕方になるとふらっと出かけて行き、新聞発行の締め切りギリギリに会社に帰ってきてサラサラと記事を書く人もいた。

私をはじめ過去記者を経験した者は、記者クラブにた

アフターコロナに向けて

ひろし世間には癒着に見えるようなことが取材手法だと思っていた。話題の黒川検事長が特定の記者たちと自粛要請中に賭け麻雀をした問題が発覚した時、私は妻に「だれでもやっつろもん」「検事なのに気軽に新聞記者と麻雀を打つなら、性格のいい検事なんやろ」と言ったら、妻から「もうそんな時代じゃないのよ」とたしなめられたが、いまひとつ納得していなかった。

ところが、連日ツイッターなどのつぶやきを読んでいると「検事も悪いが、接待麻雀まがいのことやニュースをとるなんて新聞なんか信じられない」といった多数のつぶやきを読むと、背筋をぐっと伸ばさざるを得なかった。政府や官僚がいわゆる「忖度」により法を曲げる行為がまかり通っている。新聞屋さん、あんなたちもか！の世論が聞こえてくるような気がする。

コロナ以後、世の中は大きく変わるだろう。じり貧の新聞業界もコロナと今回の賭け麻雀騒動でさらに信頼を失えば多く読者にそっぽ向かれるのは当然だ。新聞を中心とした大手マスコミは安倍政権へのダメージは大きいと騒ぎたてているが、新聞やテレビなど既存のメディアも取材手法も含めてアフターコロナには転換期を迎えている気がする。

おかだ・ゆうき／
昭和33年3月20日、
北九州市生まれ。平成
23年12月に一凛に入
門。趣味は自転車と
酒を飲むこと。酒は誘
われたら断らないが
モットー。



「なんちゃない！」

9月末開催予定の「一凛の会書道展」の第一段階は、皆さんの希望に沿った手本作成です。幸いにも、5月中旬現在、45名の出展希望の方(残るは10名程)への手本作成と配布は終わりました。

作品内容の内訳は以下の通りです。
〈漢字〉25作品 〈かな〉5作品
〈漢字かな交じり〉15作品
サイズも半紙から半切まで様々で、予想以上にバラエティーに富んだ作品構成になりました。

第二段階は、作品仕上げの準備段階です。つまり、練習です。作品によっては、使ったことのない筆(大きな筆や条幅用のかなの筆など)で書くこととなります。

私の予想ですが、いざ一度書いてみると、殆どの方が自分の選んだ作品の難さに愕然とする事と思います。

しかし、焦ることはありません。上手く書けるようになるコツを教えます。それは「百回練習」です。

「百回も書けない!」「そんな時間はない!」と思う方が大半だと思います。

しかし、月例課題程度の練習量では、とてもとても良い作品は望めません。見た人に感動を与える作品にはなりません。やはり、人知れず努力する必要があると思います。

本日(6月初旬頃)から始めても、提出期限まで2ヶ月以上あります。練習目標を立てて、こつこつやれば、百回程度の反復練習なんてなんちゃない!です。

「とりあえず」ばかりで一日が過ぎていき、「また今度」ばかりで一ヶ月が過ぎていかないように切に願います。目標に向かって「やれば出来る」を忘れずに頑張りましょう。

書道教室 一凛 薬院 佐々木峯雲



COVER ART Miki Furukawa

6月分課題

6月分課題は昇段・昇級審査対象課題となります。

提出期限予定日は7月10日(金)です。

日頃の練習の成果を十分に発揮し、昇格を目指して頑張りましょう。

硬筆	かな	漢字
<p>若松は古来、港運の盛んなところだった。古くは室町時代、飯尾宗祇が訪れ連歌を詠んだ。近年は林芙美子が四歳の時に石炭景気に泣く若松に家移り住んだ。</p>	<p>こよひこむ人には逢わじ七夕の久しきほどに待ちもこそすれ</p>	<p>唯吾知足</p>
<p>初段以上</p>	<p>六段以上</p>	<p>六段以上(草書)</p>
<p>ふるさとの瀬のわが胸にひびくをおぼゆ初夏の雲</p>	<p>不才としての儼然と遠音はさうむねいしとを心に宿る物</p>	<p>唯吾知足</p>
<p>初段以上</p>	<p>初段~五段</p>	<p>初段~五段(行書)</p>
<p>洞海湾は日本一の石炭積み出し港だった。若松南海岸は、船会社や石炭商でにぎわい、日本の近代化を支えた。若松生まれの作家火野葦平は小説「花と龍」の中でこの風景を描いた。</p>	<p>馬草やつわしのとよが夢のあと</p>	<p>唯吾知足</p>
<p>10級~1級</p>	<p>10級~1級</p>	<p>10級~1級(楷書)</p>

- 配布された手本に間違いがないか、上記課題一覧を必ず確認してください。

受験料 六段まで…1課題 500円/準師範以上…1課題 800円

※選択受験をする方は申請書の提出が必要となります。
※令和2年2月の昇段・昇級試験後から令和2年5月までの3ヶ月の間で、課題の未提出が1回以上ある方は受験不可となり、課題提出のみの扱いとなります。

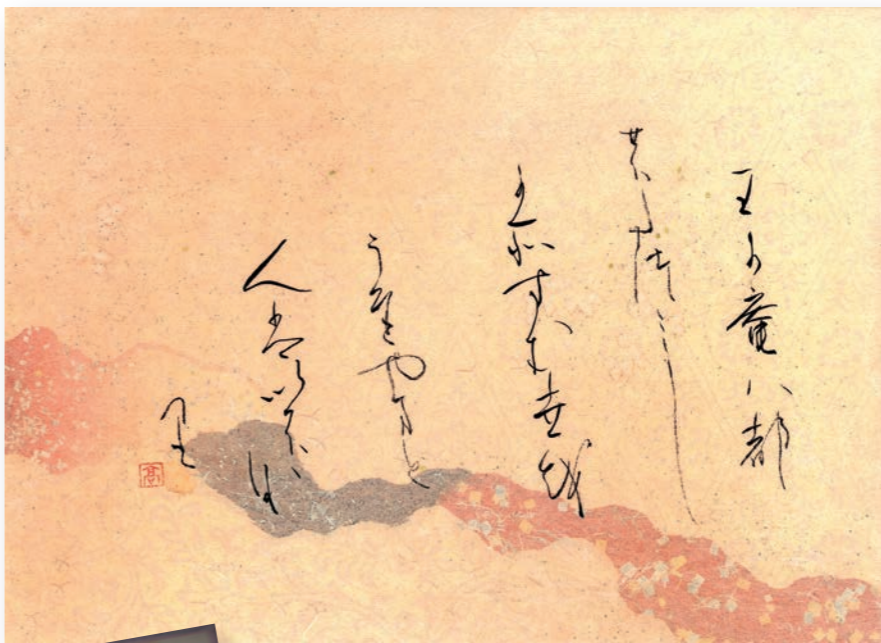
- 硬筆の添削に関して
初段以上の方の添削は毎月1回限りとします。
十分練習を重ねて仕上げた作品を添削依頼してください。

小倉百人一首に親しむ

第8回 言葉遊びの要素も含んだ歌

歌番号8

この記事は角川書店発行「田辺聖子の小倉百人一首」より引用・編集したものです。表現豊かな田辺聖子さんの文章で、小倉百人一首を楽しみましょう。



宇治山に「憂」をかけ、「しかぞすむ」は「然ぞ住む」、それに「澄む」もかけています。その上に、「しか」は「鹿」も暗示しているとみるのが自然でしょう。たつみは十二支の方位でいうと東南(辰巳)です。宇治はまさに京都の東南にあたります。《わが庵は 都の東南 宇治山なのです鹿の鳴く里にしかく(そのように) 私は心も澄み 気もはればれと住んでいます それなの 世の人は 私が世を憂しとみて かくれこもっているようにいうのです》

「かきこやく」の歌で、いかにも古今集的(理知的、観念的な内容で、優美・繊細なよみぶり)です。ことさら名歌というのではありませんが、この軽みは『古今集』の尊重する一つの境地で、酒脱(垢抜け)していることな口ぶりが楽しく思えます。

織田正吉氏の『絢爛たる暗号』では二つの大胆な問題提起があります。一つはこの歌の解釈について。この歌は十二支の遊びだといわれています。宇治山の「卯」、それに「辰」「巳」と入っています。当然あとへ「午」とつづくべきところ、「しか」を持ってきて人を意外表外に笑わせる、といわれています。

間違ったことを押し付けて人をおとしめることを、「鹿をさして馬となす」の中国の故事から、喜撰はそれをふまえつつ、「うま」というところを「しか」とやって人を笑わせたのだろうか、といわれています。

その二つは、この歌を定家が採ったことについて。定家は「都のたつみ」に心をそそられました。その方角が示唆するもの、それは後鳥羽院配流の地、隠岐からは、京都

わが庵は都のたつみ
しかぞすむ
世をうぢ山と
ひとはいふなり

【作者】
喜撰法師

【現代語訳】

私が住んでいる庵は、都である平安京のはるか離れた東南にあるものだから、おかげさまで心静かに住んでいるのですよ。
なのに、皆さんは、私が人々のお付き合いがわずらわしいと思って、そんなところに住んでいると言っているようですね。